

## 鳥インフルエンザ（H5N1）のヒトでの発生状況等について

### I. 鳥インフルエンザ（H5N1）に関する状況

- ① 2003 年以降 2011 年 12 月 21 日までに、15 カ国から 574 人の確定患者（うち 337 人が死亡。致死率 58.7%）が報告されている。
- ② 2003 年以降、限定的なヒト-ヒト感染のみが確認されているが、**地域感染は確認されていない。**
- ③ 2011 年では、バングラディッシュ（患者 2 うち死亡 0）、カンボジア（患者 8、うち死亡 8）、エジプト（患者 37、うち死亡 14）、インドネシア（患者 11、うち死亡 9）の 4 カ国から 58 人の確定患者（うち 31 人が死亡）が報告がされている。
- ④ カンボジアでは、2011 年に入り、8 人の確定患者（うち 8 人が死亡）が報告され、同国での年間症例数としては最多。そのいずれもが 19 歳未満。症例数の増加と高い致死率の原因は不明

### II. 米国におけるブタ由来インフルエンザ患者の発生

#### 1. ブタ由来インフルエンザ（H3N2）感染症例について

- ① 2011 年 12 月 9 日、米国疾病管理センター（CDC）は、同国ウエストバージニア州においてインフルエンザ（H1N1）2009 の遺伝子を有するブタ由来インフルエンザ（H3N2）のヒト-ヒト感染事例が発生したことを公表。
- ② 同様のウイルスによる患者は、今年（2011 年）7 月から、既に 10 人報告されている。（このうち 6 人は、発症前にブタとの直接接触があり、1 人は患者を監護した者である。また、他の 3 人は、発症前にブタとの接触歴はなくヒト-ヒト感染によるものとされている。10 人のうち 3 人は入院したが、現時点で全員が回復している。）
  - ・ CDC の公表では、このウイルスは、季節性インフルエンザ（H3N2）とはかなり異なり、季節性インフルエンザワクチンの交差免疫性は成人で限定的、小児では無い。しかし、抗インフルエンザ薬のオセルタミビルやザナミビルには感受性があり、CDC は、季節性インフルエンザと同様にブタ由来インフルエンザ患者の治療に、これらの薬剤による治療を推奨している。

## 2. ブタ由来インフルエンザ（H1N2）感染症例について

- ① 2011年12月9日、CDCは、同国ミネソタ州においてブタ由来インフルエンザ（H1N2）のヒト-ヒト感染事例が発生したことを公表。
- ② 同様のウイルスによる患者は、2007年に同国ミシガン州でも報告されたが、今回は2例目の報告である。（このうち、今回の患者は、発症前にブタとの接触歴はなくヒト-ヒト感染によるものとされている。現時点で回復している。）
  - ・ CDCの公表では、このウイルスは、2007年頃に流行したインフルエンザ（H1N1）に類似しており、この当時のインフルエンザ（H1N1）に暴露した者でのこのウイルスの交差免疫性は限定的にはある。しかし、抗インフルエンザ薬のオセルタミビルやザナミビルには感受性があり、CDCは、季節性インフルエンザと同様にブタ由来インフルエンザ患者の治療に、これらの薬剤による治療を推奨している。

## 3. 関係機関の対応等

- ① CDCは、12月9日、今般の事例を受けて、米国全土におけるサーベイランスの更なる強化の実施を要請。
- ② WHOは、12月19日、各国に対して鳥インフルエンザ（H5N1）感染症例を含む新たなインフルエンザの感染症例に係る検体の衛生研究所等への提出を勧告。